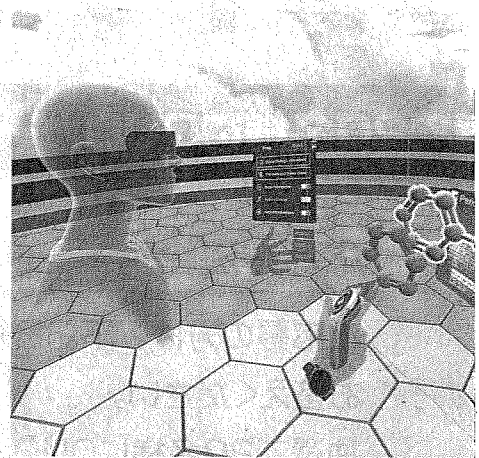


# 企業向



米ナノムのソフトはVR空間でばく質を分析する(イメージ図)

VRの活用領域が広がっている		
分野	企業名	企業向けサービス
不動産	ナーブ	VRで不動産内見ながら商談する機
	スペースリー	360度カメラ画像で不動産内見などに
医療・介護	ジョリーグッド	医師や介護職員向けサービス。小売店ト育成にも
アプリ作成	インスタVR	オフィス案内などを手軽に作れる
イベント	クラスター	セミナーや商談会で開催

オキユラスが19年に価格を約5万円に抑えた「オキユラスクエスト」を発売した。端末価格が下がりはじめたところに、新型コロナウイルスで需要が増えた格好だ。20年に日本で商用化が始まった5Gも大容量映像の遅延が減るなど追い風となる。GFRフアンドの筒井鉄平マネージャーは「遠く離れたところから、遠隔技術への投資が増え、

人事・労務管理のSmartHR(スマートフォン、東京・港)は企業向け採用支援システムを開発する新会社を立ち上げた。過去に選考過程で不採用になった人や退職者など今後の採用につながる

り、社長は佐野氏が兼任する。開発するシステムは採用者や退職者をデータベース化し、その中から自社の求人情報と適合する人物を照会。不採用者でも、違う職種や経営環境が変わることで活躍できる可能性がある。一度でも自社と関わりがあった人材であれば、入社後のミスマッチが少ない。

## 地域発 世界へ



染色加工の山陽染工(広島県福山市)は欧米の高級アパレルブランドを開拓する。デニム生地の色を抜き、濃淡で花柄などを表現できる技術が強み。商社経由だったが直接販売にも乗り出し、ブランドの要望に合った商品を企画する。単純な色染め作業と差異化を図ることで、高価格市場で存在感を高めつつある。

2月、伊ミラノで開かれた世界的な生地の展示会「ミラノ・ウニカ」。会場

### 山陽染工 欧米高級ブランド開拓



商社に頼らず、直接販売で技術力をアピールする(海外バイヤーとの商談会)

会社概要 1925年創立。生地を仕入れて染めたり、色を抜いたりして納入する「受託加工」を主に手がける。インディゴ染めの技術や生産体制が強み。2020年3月期の売上高は約14億円。従業員数は91人。

取締役は「価格競争ではじり貧になる。うちにしかできない加工が必要だった」と振り返る。

ところが新型コロナウイルスの拡大は、その一環であり、約1000万円の商談につながるなど実績が出始めている。

## デニム色抜き、直販で磨き

では目の肥えた世界のバイヤーが感心していた。「どうやって作っているのか」。色を抜いて風合いを出す注目の先は山陽染工が「段落ち抜染(ばっせん)」と呼ぶ独自技術で色を抜いたデニム生地だった。

山陽染工は綿やデニム生地の色を付ける「染色」や、低下。そこで工程が単純な1色染めではなく、より技術が必要で深掘りする方針に転換。1年半かけ、2014年に段落ち抜染の技術を開発した。戸板一平、乗り出した。ミラノ・ウニカ(広島支局 河野真央)

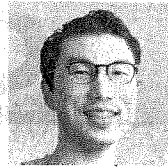
アとの価格競争で収益力が低下。顧客にとって理解が大産地だが、世界的な知名度はまだ低い。「黒子」が世界に羽ばたく成功例となるか、試験の時を迎えている。

段落ち抜染は珍しい技術。福山市はデニム生地の一大産地だが、世界的な知名度はまだ低い。「黒子」が世界に羽ばたく成功例となるか、試験の時を迎えている。

「日本」の。意の会田武史。同社は営業知能で提供。中心に。にフィード。タがたまれ。営業ノウハウ。他の社員に。会田氏を。のは焦燥感。後に三菱商。ビジネスに。やりがいを。社6年目の。に「挑戦し。のか」と自。7年に商社。を捨て起業。

@EDGE

レブコム代表 会田 武史氏



営業

「日本」の。意の会田武史。同社は営業知能で提供。中心に。にフィード。タがたまれ。営業ノウハウ。他の社員に。会田氏を。のは焦燥感。後に三菱商。ビジネスに。やりがいを。社6年目の。に「挑戦し。のか」と自。7年に商社。を捨て起業。